

令和2年2月10日

愛知県上海産業情報センター

林 秀 幸

一般調査報告書

新型コロナウイルス肺炎の流行に伴う上海市内の状況について

2019年12月31日に湖北省武漢市の衛生健康委員会が発表した原因不明のウイルス性肺炎の発症事例の報告から1か月余りが過ぎ、気がつけば2月10日の時点で累計感染者数は全世界で4万人を超え、死者は1,000人を超えるという大変な事態となりました。

そして、感染の拡大は未だ収まらず、今後の見通しも不確かな状況が続いています。そうした中、中国内の多くの省・市では、企業活動の再開に向けた動きが始まっており、感染の拡大防止策を最大限に実行しながらも、経済活動の低下による景気への影響を最小限に食い止めようとする中国政府の難しいかじ取りが続いている状況です。

この先、この感染症の流行がいつまで続くのか、現時点では全く先の読めない状況ではありますが、これまでの経過を含め、新型コロナウイルス肺炎（以下、新型肺炎）の流行に伴う上海市内の現況について、ご報告したいと思います。

1. これまでの主な経過

2019年

12月31日 ・中国湖北省武漢市で原因不明のウイルス性肺炎の発症事例を公表

2020年

1月 6日 ・「中華人民共和国湖北省武漢市における原因不明肺炎の発生について」
-日本・厚生労働省（第1報）-

発生数：59例の確定例（うち7例は重症）死亡例なし。59例の発症日は2019年12月12日-29日の間。
感染経路：不明。ヒト-ヒト感染の明らかな証拠なし。医療従事者の感染例なし
発生場所の疫学的な特徴：海鮮市場（華南海鮮城）と関連した症例多い。当該市場は、野生動物を販売している区画もある。現在閉鎖中。

1月20日 ・習近平国家主席が湖北省武漢市で発生している新型コロナウイルスによる肺炎について、感染拡大抑制のための重要指示を発表

全国：累計確診291例、死亡3例 上海：累計確診2例、死亡0例

1月23日 ・武漢市政府は、市内全域で路線バス、地下鉄、フェリー、長距離バスの運行・運航のすべてを停止するとともに、武漢発の航空便への搭乗、武漢を離れる鉄道への乗車を停止する措置を発表

全国：累計確診830例、死亡25例 上海：累計確診20例、死亡0例

1月24日 ・日本国外務省は、湖北省全域の感染症危険情報をレベル3（渡航中止勧告）に引き上げ

- ・中国の春節休暇開始（24日～30日）
全国：累計確診1,287例、死亡41例 上海：累計確診33例、死亡0例
- 1月27日
 - ・中国国務院は、春節休暇の2月3日までの延長を発表
 - ・上海市は、2月9日24時以前の企業の業務再開を禁止するとともに、2月17日以前の各種学校（小・中・高・幼等）の始業を禁止
 - ・中国から海外への団体旅行停止
全国：累計確診4,515例、死亡106例 上海：累計確診66例、死亡1例
- 1月29日
 - ・武漢からの政府チャーター機（第1便）が羽田空港に到着
全国：累計確診7,711例、死亡170例 上海：累計確診101例、死亡1例
- 1月30日
 - ・武漢からの政府チャーター機（第2便）が羽田空港に到着
全国：累計確診9,692例、死亡213例 上海：累計確診128例、死亡1例
- 1月31日
 - ・日本国外務省は、中国全土（湖北省を除く）の感染症危険情報をレベル2（渡航自粛要請）に引き上げ
 - ・武漢からの政府チャーター機（第3便）が羽田空港に到着
全国：累計確診11,791例、死亡259例 上海：累計確診153例、死亡1例
- 2月1日
 - ・上海市はマスクの店頭販売を停止し、住民登録による予約販売に変更。
全国：累計確診14,380例、死亡304例 上海：累計確診177例、死亡1例
- 2月3日
 - ・大型クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号が横浜港に入港
全国：累計確診20,438例、死亡425例 上海：累計確診208例、死亡1例
- 2月4日
 - ・上海市は2月17日以前の各種学校の始業禁止措置を延長し、2月末以前の始業禁止に延期
全国：累計確診24,324例、死亡490例 上海：累計確診233例、死亡1例
- 2月7日
 - ・武漢からの政府チャーター機（第4便）が羽田空港に到着
全国：累計確診34,546例、死亡722例 上海：累計確診281、死亡1例
- 2月10日
 - ・上海市始め中国国内の多くの省・市で企業活動再開
 - ・上海市はビルの全体空調の使用停止、バス・タクシーの窓を開けた状態での営業などを奨励
 - ・上海市内の地下鉄は駅での体温検査、マスクの着用を義務化
全国：累計確診42,638例、死亡1,016例 上海：累計確診302例、死亡1例

※ 感染者数の数値は、中国国家衛生健康委員会、上海市衛生健康委員会の各日24時現在の公表データによる。なお、「全国」には香港、マカオ、台湾は含まれない。

2. 上海市内の状況

2020年の中国の春節（正月）は1月25日でした。春節休暇は1月24日から30日までの7日間でしたが、今年は新型コロナウイルス肺炎（以下、新型肺炎）の影響で2月3日まで延長されました。しかし、元来、中国における春節休暇は実際の休暇期間よりも長いという実態があります。春節を挟んだ約40日間（春節の15日前から春節の後25日）は国内の帰省ラッシュ期間として「春運」と呼ばれ、列車や長距離バスなどは特別ダイヤで運行されます。このため、1月の中旬には

すでに都市部からの地方出身者の帰省が始まっており、現地のテレビでも春運特集が組まれ、故郷へ戻る人々の様子や家族との再会の場面などが連日放映されていました。こうしたことから、武漢市が事実上の封鎖となった1月23日の時点では、すでに地方出身者の多くが、故郷への帰省の途に着いていたと想像されます。

春節休暇の初日を迎えた1月24日の時点では、上海市内ではマスクを着けた人の姿を多く見かけるようにはなったものの、まだ特段の規制や、感染症に対する強い危機感はそれほど感じない雰囲気もありました。しかし、その後、月末にかけて上海市内においても報告される感染者の数が徐々に増え始め、1月27日に中国国務院が春節休暇の2月3日までの延長を発表し、上海市政府が2月9日までの企業活動の再開延期を発表する頃になると、市内の緊張感は一気に高まりました。わずか1週間前まで、春節前のお祝いムードに包まれていた街の雰囲気は一変し、テレビもラジオもネットもSNSも新型肺炎の話題一色となってしまいました。

この時期、街のスーパーから生鮮食料品やトイレットペーパーが無くなったという噂が流れ、現に葉物野菜や肉類を中心に品薄になるという光景が一部で見られました。しかしこの状況はすぐに改善し、市民の不安は速やかに解消されました。政府は企業活動の再開を延期する一方で、生活インフラや食料・医療などに関わる業界には通常営業を促し、市民生活の安定を確保する方針を打ち出していたため、大きな混乱が起こることはありませんでした。

ただ、マスクの購入については、早い時期から品薄の状況が発生し、1月の後半には街の店頭で一切見かけなくなりました。このため、一般市民は街の薬局において数量限定で販売される行列に並んでマスクを購入していましたが、2月1日からは市民が行列を作ることが新たな感染拡大のリスクになるとして、こうした販売も中止されました。現在は、各自が各居住区の委員会に登録すると、在庫の入荷があれば指定の薬局で1世帯あたり1回5枚の購入が認められるという制度に変更されています。

1月末から2月にかけて、武漢市始め湖北省での深刻な感染の実態が明らかになるにつれ、上海市内においても感染の拡大防止に向けた様々な措置がとられるようになりました。

交通の面では、高速道路などの市境では市外から入ってくる車に対する検問が敷かれ、体温検査の実施や、トランクなどに隠れて移動する湖北省等からの無断流入者を摘発するといった対策が始まりました。高速鉄道は運航本数が大幅に減らされ、春節明けに予想されるUターンラッシュの分散措置が講じられ

ました。地下鉄では、改札での体温検査とマスクの着用が義務化され、バスやタクシーでは、エアコンを止め、窓を開けたままの状態で行くことが奨励されるようになりました。

また、一般市民の生活では、市内に約12,000あるという小区（居住ブロック）において、「封閉式管理」という措置がとられるようになりました。これは、小区の住民に新たに許可証を発行し、住民の出入りを管理する制度で、小区の出入口での体温検査の実施や、市外から戻ってきた住人の登録と14日間の自宅待機を求めるといった対策です。いわゆる「封鎖」ほど厳しいものではありませんが、住民の活動を必要最小限に制限することによって感染の拡大を抑えるための措置として実施されています。

オフィスでは、ビルの全体空調が感染を広げる恐れがあるとして、独立した個別空調のある場所以外はすべて空調の運用が停止されました。オフィスでの換気も奨励され、多くのビルで真冬の寒気の中、窓を開けたまま執務をする様子も見られます。また、政府は時差出勤や在宅勤務を奨励しており、民間の調査では、日系の企業でも2月10日からの企業活動再開にあたり、約65%が在宅勤務を実施するという報告もありました。

また、感染の拡大が報じられた早い段階から、何より人が集まることが感染の連鎖につながるとして、公園や博物館などの公共施設、観光施設の閉鎖が始まりました。上海の有名観光地である外灘（わいたん）や南京東路、豫園（よえん）といった場所は現在でも人の出入り自体は可能ですが、訪れる人の姿はなくなり閑散とした光景が広がっています。

上海市政府が矢継ぎ早に人々の活動を制限する政策を繰り返した結果、市内の人の動きはほぼ停止し、企業活動が再開されて以降も多くの人々が在宅のまま仕事をし、不必要な外出を極力控えていることから、街は異様な静けさに包まれています。そうした意味では、政府による市内の抑制は極めて効果的に働いており、中国の中でも上海市は、その人口に比べて感染者の発生数が比較的伸びていないという状況になっています。

上海市の今後の課題としては、現時点でまだ多くの労働者が帰省先から戻れておらず、これからそうした地方からの復帰者が増加していく中で、新たな感染の拡大と経済の再稼働をどのように両立させていくかということが重要になってくるものと思われます。

引き続き、事態の動向を注視していきたいと思っております。



日系スーパーの生鮮品売場



中国系スーパーの生鮮品売場



車も人も往來の途絶えた市内（17時頃）



市内中心部の地下鉄（18時頃）



マスクを購入するために並ぶ人々



行列による販売中止を告げる薬局の掲示



小区の出入口での入退管理



窓を開けた状態で運行するバス



南京東路（15時半頃）



外灘（16時頃）



豫園（16時半頃）



豫園（土産店は営業中）

上海産業情報センターでは、今後も中国の現地情報を提供して参ります。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。
上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。
また、万一不利益を被る事態が生じましても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。